

ヨウシユヤマゴボウ

山田真砂年

小鳥来るたび窓開けて青き空  
舂する花火の中に四面楚歌  
名月にテロリストのごと星寄りぬ  
ヨウシユヤマゴボウ路地へ斜めの秋日差し  
西鶴忌昼をしのげるカップ麺  
水澄むや鋼光りに鯉の背ナ  
鮎はいま川の真中を落ち行ける  
落し水さらさら恙なき音す  
峡の子の黍かき分けて出で来たる  
落蟬に大胆な蟻五六匹  
秋天や潮目は龍のごと沖へ  
風吹いて海には海の秋のこゑ  
軍艦のゐない港や羊雲  
高階に虫籠吊れば街灯る  
菊月の日暮れ灯さぬ静けさに  
参拝の前に熱々おでん食ふ  
煌々と灯る納経所ふだしよや秋霰雨  
数珠玉の仏舍利ほどの白さかな  
秋薔薇囁くやうに話しをり  
秋海棠けふは晴れとも曇りとも  
ハロウインのお菓子お菓子の残り貰ひけり  
平民のやうな一重の秋の薔薇  
父と子の野に赤のまま赤のまま  
切株のあればあたりに秋の声  
沈金の閑かさにあり女郎花